

令和元年度事業評価書（平成 30 年度事業）

評価事項	評価項目	評 価	評 価 内 容
教養文化の向上	量的な視点からサービスは適切に行われたか。	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	稼働率も高く、集客をしている。
	質的な視点からサービスは適切に行われたか。	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	利用者の満足度が高い
	地域的な広がり、維持が適切に行われたか。	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	泉大津市教育委員会とのコラボレーション事業を実施するなど、当施設及び当施設のもつノウハウが地域資源として活用されている。
	ステップアップ促進が適切に行われたか	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	次世代層の獲得が進んでいる
情報発信	量的な視点から適切に情報発信が行われたか。	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	アナログ、デジタル双方で適切な頻度、タイミングで情報発信を行っている。
	質的な視点から適切に情報発信が行われたか。	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	わかりやすくかつ親しみやすい内容で情報発信を行っている。
	情報発信の方法は、適切であったか。	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	アナログ、デジタル双方で適切な情報発信を行っている。
地域支援	量的な視点から適切に地域支援が行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた☑ 適切とは言えない。	地域支援を実施し、新たな取り組みもあるが、さらなる発展が望まれる。
	質的な視点から適切に地域支援が行われたか。	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	当施設のもつノウハウ等を生かした質の高い取り組みとなっている。
	地域支援の方法は、適切であった	適切に行われた ほぼ適切に行われた☑	現取り組み方法は適切であるが、まだまだ可能性があるのではないかと考える。

	か。	適切とは言えない。	
市民ニーズへの対応	市民ニーズの把握と満足度向上への取り組みは適切に行われたか。	適切に行われた☑ ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	ターゲットのニーズに合致するような取り組みを企画するなど創意工夫がみられる。
事業計画とコンセプトとの整合性	策定された事業計画は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	適切☑ ほぼ適切 適切ではない	毎年新たな企画を加えながら、市民の生涯学習等自己啓発ができる取り組みを計画しており、適切である。
	策定された事業計画の実施によって具体的な成果（アウトカム）が上がっているか。	上がっている☑ どちらとも言えない。 上がっていない。	利用者層の拡大、活動エリアの拡大などで確実に成果が上がっている。
	PFI 事業者の実施体制は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	適切☑ ほぼ適切 適切ではない	現状に満足せず、自ら研鑽をつみ、量的にも質的にも常に向上を目指し実現させている体制である。

事業についての講評

PDCA サイクルをきちんと回されており、事業内容のレベルは高いものである。当施設のもつ可能性はまだまだ大きく、地元の保育・幼稚園、小、中、高等学校での事業実施やコラボ事業、教育委員会とのコラボ事業の充実を図っていただきたい。また、利用率の低い高校生などの若者や男性へのアプローチも引き続き努力ください。

PFI 事業者への提言、提案など

高校生などの自主企画によるプログラム開発、たとえばショートムービーコンテストなどの開催や地元事業者（ニット、毛布など）を巻き込んだ事業などもご検討いただけたらと思います。